

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

# <研究ノート>グローバル・キャリア教育研究アプローチの検討 : 大連外語大学におけるキャリア意識調査から

著者	坂本 旬, 葛西 和恵
出版者	法政大学キャリアデザイン学会
雑誌名	生涯学習とキャリアデザイン
巻	14
号	1
ページ	129-146
発行年	2016-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/12705">http://hdl.handle.net/10114/12705</a>

# グローバル・キャリア教育研究アプローチの検討 ——大連外語大学におけるキャリア意識調査から——

法政大学キャリアデザイン学部教授 坂本 旬  
中央学院大学非常勤講師 尚美学園大学兼任講師 葛西 和恵

## はじめに

法政大学キャリアデザイン学部は、キャリア体験学習（海外）やゼミ活動を通じて、国外でのインターンシップやスタディーツアー、キャリアをテーマとした授業の実施、学生間の交流活動を行ってきた。しかし、学部として、グローバルなキャリアデザインに関わる教育・研究活動に明確な方針を持っているとはいえない状況にある。一方、法政大学は2014年にスーパー・グローバル・ユニバーシティ（SGU）に指定され、「世界のどこでも生き抜く力を持ったグローバル人材の育成」を掲げたグローバル・ポリシーを策定した。つまり、本学部においてもグローバルなキャリアデザインやキャリア教育研究が問われることになる。

このような環境の中で、筆者らは中国大連外語大学の学生を対象としたキャリア意識調査を実施した。本稿は、この調査の理論的な位置付けを行うとともに、調査が示唆する点について検討を行いたい。

## 1 グローバル・キャリア教育研究の射程

### (1) キャリア・ガイダンスとキャリア教育

キャリア教育とは、一般的な理解によれば、キャリア・ガイダンスのうち、学校で実施されるプログラムのことをいう。例えば、国際キャリア教育学会は、キャリア教育を「カリキュラムにおける

一般教科にキャリアや労働市場の情報を導入することであり、これにより教材をより日常生活に関連づけることができるとともに、教育に対して（バラバラに教えるよりも）調査のスキルや思考、問題発見を教え込むものである」（International Association for Educational and Vocational Guidance, 1999）と定義している。

また、OECDはキャリア・ガイダンスを「人生を通じたあらゆる年代、あらゆる場面で人々を支援する意図的なサービスであり、教育や訓練、職業の選択と自身のキャリアのマネジメントを可能にするもの」と定義づけた上で、「キャリア・ガイダンスやその一部となるキャリア教育を職業教育と区別することが重要である」と述べている（OECD, 2004, p.20.）。

このように、キャリア教育は学校でのプログラムを指し、キャリア・ガイダンスはキャリア教育を含む生涯学習全体にかかわるプログラムであり、その目的は人々が自らのキャリアの主体となることであるといえるだろう。ただし、日本では、キャリア教育の概念の中にキャリア・ガイダンスを含めることが一般的であるため、本稿でも「キャリア教育」という用語を、キャリア・ガイダンスを含んだものとして使用する。

### (2) グローバル・キャリア教育の定義

今日、初等中等教育から高等教育まで、グローバル人材育成が焦眉の課題になっていることはい

うまでもない。2013年には高等教育位を中心とした、グローバル人材育成教育学会が設立されたことはその象徴であろう。しかし、グローバル人材育成という用語が課題にしているのは、主に国内であって、この課題自体がグローバルなものとして意識されているわけではない。グローバル・キャリアという用語もまた、国内の教育に限定されて検討されることが多い。

例えば、友松篤信は「グローバル・キャリア教育を「グローバルマインドの啓発・育成・実践を通じて、自覚と自律に基づく持続的なキャリア形成を支援する教育」（友松篤信『グローバルキャリア教育 グローバル人材の育成』, pp.16-17.）と定義している。ここでいう「グローバルマインド」とは「多様な文化や価値観との相互作用によって、新たな価値を生み出そうとする発想と行動様式」（同上、p.17.）だとされる。しかし、友松が問題にしているのは国内だけであることには変わりはない。

筆者らが問題にするのは、国内だけではなく、国外、とりわけ本学と交流の多い中国やベトナムなどの東アジアおよび東南アジアにおけるキャリア教育である。国内外における学生間交流が、留学やインターンシップも含め、質量ともに拡大すれば、国内のみならず、日本に留学する可能性のある国外の高等教育におけるキャリア教育の質量も検討される必要がある。

しかし、より重要なことは、今日のキャリア教育をめぐる課題をグローバルな観点から捉え直すことである。2008年のリーマンショックが世界的な経済危機となり、国内の労働環境や就職状況に大きな影響をもたらしたことは記憶に新しい。もはや経済格差は世界的な問題として理解されなければならない。このような危機の背景には、先進諸国における新自由主義的経済政策とそのグローバルな展開がある。

ハイスロップ・マージソンとシアーズはこのような状況を次のように描写する。「不幸なことに、現代の労働環境は工業国の数多くの労働者の雇用を破壊する労働市場のボラタリティが生み出

す、再帰的な職業移動を含んでいる。人的資本教育に結びついた生涯学習の言説は、学生が、未来の労働者として、新しいグローバル経済体制の中で彼らが直面する職業的な不安定さに対応できるよう、受動的な役割を受け入れることを確かなものにするを目的に構想されている。多くのキャリア教育プログラムは、生涯学習を曖昧な装置へと作り変えることによって現代の労働市場環境へ応えるものであり、この装置は学生を労働市場への自己調整へと向かわせるのである。」(E.J.Hyslop-Margison and A.M.Sears, 2006, p.73.)

彼らが描いているのは、先進国だけではなく、発展途上国を含む、まさにグローバルな課題として今日のキャリア教育研究に提起されているものと言える。

### (3) ユネスコ「キャリア・カウンセリング・ハンドブック」が示唆するもの

発展途上国を含むグローバルな視点からのキャリア教育を考察するならば、ユネスコの動向が一つの手がかりになるだろう。筆者らは、すでにユネスコの「キャリア・カウンセリング ハンドブック—高等教育におけるキャリア・カウンセリングの開発・方法・評価についての実用的なマニュアル」(UNESCO, 2002)を共同で翻訳し、公開している。

本ハンドブックは、1998年10月にバリで開催された高等教育世界会議のフォローアップとして、ユネスコが中心になって参加パートナーと協力して現場に役立つツールとして作成されたものであり、本ハンドブックをまとめたマーゴット・グリフィス (Margot Griffiths) は、タンザニアでの実践経験を持っている。

本ハンドブックでは、グローバル化の問題を制作の動機の一つに位置付けており、国際的な共同研究ととりわけ発展途上国における「多文化的な文脈に適用可能なキャリアの枠組み」(日本語訳, p.3.)の重要性が指摘されている。このような視点はグローバル・キャリア教育の理論的枠組みの

検討に大きな示唆を与えるものである。序文には次のように書かれている。

このハンドブックは「グローバル・ビレッジ」という観点から書かれました。著者は、キャリアについての似たような関心や意欲が、国境を超えて共有されていると考えています。したがって、今日利用されている多くのキャリア・カウンセリングの方策や理論は、国境を超えた実践的有用性を持っています。しかし、同時に国境や地域を超えて、社会経済的状况や宗教的、文化的なしきたりなど、さまざまな要因によって大きな相違の存在を明記しておくことも大切です。つまり、個人のキャリア・カウンセリングやキャリア発達のプロセスの制限や拡大も、それらの要素の反映なのです。(Ibid. p.3.)

本ハンドブックに書かれているキャリアに関する定義や理論的前提は、本稿にとっても重要である。

まず、キャリアは「個人の生活の中で、有給と無給双方の仕事を含んだ個人の生涯にわたる仕事の役割と、他の生活の役割との相互作用」(Ibid. p.5.)と定義される。すなわち、キャリアは決して職業上の経歴だけを指すのではなく、家族や生活上の役割とそれらの相互作用の過程を含んでいる。

また、序文にも触れていたことだが、異文化に対する配慮がなされている点についても指摘しておくべきだろう。パットンとマクマホンのキャリア発達に関する理論を紹介しながら、「ジェンダーや価値観、性的指向、能力、障がい、興味関心、スキル、年齢、仕事世界の知識、身体特性、才能、民族性、自己概念、性格、信条、健康といった個人の違いに応じた環境や社会の重要性」が指摘されている。(Ibid. p.6.)

なお、ユネスコにおけるキャリア・カウンセリングはキャリア・ガイダンスとともに「技術・職業教育訓練」(TVET) プログラムの中で扱われており、この分野では UNEVOC (<http://www.unevoc.unesco.org/>) という組織を作って継続的

に施策や研究を行っている。

#### (4) 国外におけるキャリア教育研究の視点

上記の内容をまとめると、第一に、グローバル・キャリア教育研究は、単なる国内のキャリア研究の国外への応用ではなく、キャリア発達に関わるグローバルな課題をテーマに、国外の研究者との共同を含むグローバルな地域を対象とする。

第二に、職業的なキャリアだけではなく、生活領域のキャリアとそれらの相互作用過程、およびそれらを前提とした生涯にわたる教育実践・学習活動を含む。

そして第三に、地域や個人の文化的多様性を十分に考慮し、研究課題として多文化社会の視点を重視することが求められる。とりわけ、今日のグローバル人材育成の観点からは、学生間の異文化交流に伴うキャリア意識の発達や変化もまた重要な研究対象となるだろう。

法政大学キャリアデザイン学部では、中国(北京)およびベトナム(ホーチミン)において、短期間のインターンシップを含む「キャリア体験学習(国際)」を実施している。北京での同授業に同行することになった葛西は、日系企業における現地スタッフの採用や人材育成について調査・研究することを思い立ち、その成果を「中国進出日系企業の採用・人材育成—キャリア形成の実態と課題—」(葛西, 2013)としてまとめた。この研究は、北京の日系企業16社の人事担当者に取材を行ってまとめたものであり、いわば雇用者側の実態や意識を調査対象としている。そのため、中国の大学生の実態や意識は調査対象に含まれていない。

すでに述べたように、グローバル・キャリア教育研究は、国際的な共同研究であるとともに、研究対象もまた国外に拡大する必要がある。そこで、本稿では、キャリアデザイン学部と学術一般協定を結んでいる大連外語大学日本語学部の孫妍講師に協力を依頼し、共同でアンケート調査を行った。同大学は坂本が毎年協定に基づいて日本語学部の学生を対象にメディアやキャリアに関する授業を

行っている。この調査に引き続き、ベトナムでも同様の調査を行う予定である。

## 2 大連外語大学日本語学部におけるアンケート調査の概要

### (1) 本調査の先行研究

本稿では、次に示す先行研究を参考にしてアンケート調査票を作成した。①～③は国内の学生や新入社員を対象としているが、④は国内だけではなく、日本を含むアジア 8 カ国が対象である。

#### ①大学生のキャリア意識調査

同調査は、京都大学高等教育研究開発推進センターと電通育英会が共催して実施している。大学生の学習を含む生活実態やキャリア意識などを調べる全国調査で、2007年より3年おきに実施している。どの年度も、大学1年生と、大学3年生のデータを取っている。2013年より、東京大学大学総合教育研究センターも共催に加わった<sup>1)</sup>。

2015年3月に発表された『「大学生のキャリア意識調査 2007-2010-2013年の経年変化」報告書』の結果概要から、今回実施したアンケート調査と関連する項目を抜粋すると、次のとおりである。

- ・ 大学生生活の重点：「勉強や研究を第一にといった生活」の割合が増加している。1年生でより顕著に変化が認められる。
- ・ インターンシップへの参加：変化が認められない。しかし、参加した者の影響度は高い。
- ・ キャリア形成科目（単位有り）の受講：3年生では増加傾向が認められる。しかし、影響度は50%程度で、高いとはいえない。
- ・ キャリア形成支援のためのセミナーや講座（単位無し）の受講：受講率は1年生では増加しているが、3年生では減少している。3年生では影響度も落ちている。
- ・ 大学で就職に関する相談の有無：3年生では相談率が落ちているが、相談する者のなかでは、キャリアサポートセンターにいる専門スタッフ・カウンセラーに横断する割合は増えている。

- ・ 就職に備えて資格を持っておくことが必要かどうか：3年生では必要だと考える者の割合が減少している。

#### ②新入社員「働くことの意識」調査報告書

同調査は、公益財団法人日本生産性本部と一般社団法人日本経済青年協議会が共同で実施している。新入社員の意識調査については、昭和44年度に実施して以来、平成28年度で48回目を数え、この種の調査ではわが国で最も歴史のあるものになっている。

2016年7月に発表された、平成28年度新入社員による同調査結果のポイントから、今回実施したアンケート調査と関連する項目を抜粋すると、次のとおりである。

- ・ 「デートか残業か」では、「残業」（昨年度80.8% → 76.9%）「デート」（昨年度19.0% → 22.6%）と、プライベートの生活よりも仕事を優先する傾向があるが、ここ数年は「デート派」が増加している。

#### ③マイナビ大学生就職意識調査

同調査は、各種の就職・転職情報サービスをいう株式会社マイナビが実施している。1979年以来、大手企業志向、企業選択のポイント、就職希望度等の大学生の就職意識を調査し、発表している<sup>2)</sup>。

2017年3月大学卒業予定者の同調査結果のトピックスから、今回実施したアンケート調査と関連する項目を抜粋すると、次のとおりである。

- ・ 企業選択のポイントでは、「自分のやりたい仕事（職種）ができる会社（38.4%、対前年1.8pt減）」「働きがいのある会社（16.0%、対前年比1.6pt減）」「社風が良い会社（17.4%、対前年比0.4pt減）」が減少し、代わって「安定している会社（28.7%、対前年比2.4pt増）」「勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社（13.4%、対前年比1.0pt増）」「給料の良い会社（12.8%、対前年比1.6pt増）」が増加した。「自分のやりたい仕事（職種）ができる会社」は、最も選ば



れる項目でありながらも、2001年卒調査以降、最も低い割合だった。一方、「安定している会社」は、2001年卒調査以来最も高い割合である。

- ・就職希望度については、「なにがなんでも就職したい」は前年比 0.1pt 減の 87.6%と、ほぼ前年並みとなった。
- ・志望職種については、「営業企画・営業部門」が前年比 1.8pt 増の 28.1%と、7年連続の 1位である。特に文系学生については、男女とも 2年連続で志望する割合が増加しており、さらに直近 10年で見ると男女ともに 10pt 以上増加している。増加の程度で見ると、文系女子の志望する割合は 10年間で 1.5倍にもなっており、職種に対する認識が変化していることが分かる。理系学生については男女とも「研究・開発部門」が 14年連続の 1位だが、男女ともに微減し、それぞれ選択された割合は 01年卒調査以来最も低い。

#### ④グローバル・キャリア・サーベイ「アジアの『働く』を解析する」

同調査報告書は、リクルートワークス研究所によって 2013年に発表された。タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナムの東南アジアの中核 4カ国のほかに、中国、韓国、インド、そして日本を加えた合計 8カ国が調査対象である<sup>3)</sup>。

同調査の特徴は、a) 働くことに関する基本的な情報を把握することを目的とする、b) 分析対象を 20代、30代の都市部の大卒雇用者に限定する、c) 多国間比較で特徴を見ることとしている。

同調査報告書から、今回実施したアンケート調査と関連する項目を抜粋すると、次のとおりである。

- ・面接や、提出書類の記述内容において、自分のどのような面を強みと認識し、セールスポイントとして打ち出しているかを国別に探ると、「基礎能力」「態度」が全般的に高い、人間としての基本的な枠組みを重視するグループはタイとマレーシア、大学の学びのなかでも「専門知識・技術」のスコアが高いグループは中国、インド

ネシア、ベトナム、基礎能力だけが強く、中でも「人間関係能力」が突出しているグループは韓国と日本であるとしている。

- ・どの国の企業で働きたいかについて見ると、どの国においても圧倒の人気なのはアメリカ企業である。日本企業については、東南アジアを中心に勤務意向が高い。
- ・日本企業に対するイメージは、どの国においても「長期的な視野で仕事のスキルやノウハウを学べる」の割合がほかと比較して高いが、「将来のキャリアパスを描くことができる」の割合は共通して低い。

## (2) 調査の目的および実施時期と対象者

調査目的は国外の大学生のキャリア意識であり、対象者は大連外語大学日本語学部の学生である。年齢は 19歳から 23歳までであり、平均年齢は 20.76歳である。また、調査時期は 2016年 6月である。

表 1 調査対象学生 (単位：人)

学年	男子		女子		計	
1年	0		0		0	0.0%
2年	9		26		35	70.0%
3年	2		12		14	28.0%
4年	0		1		1	2.0%
合計	11	22.0%	39	78.0%	50	100.0%

## (3) 調査結果の概要

今回の調査からわかることを以下にまとめる。

- ①奨学金などを得ている学生が全体の 3割であり、その半数が「返済の必要はない」と回答しており、日本とは状況が異なる。
- ②“外的キャリア”特に、収入や待遇を重視する傾向がある。「高い収入が得られる仕事」を理想とする人が 6割であり、「各人の業績や能力が大きく影響する給与体系」を望む人、「高い職位につくために、少々苦勞はしてもがんばる」人がともに 8割を超える。
- ③専門性や、“やりたい仕事”につくことを重視

する傾向があり、「希望する就職先に決まらなければ、就職しなくてもよい」とする人が6割を超える。しかし、アルバイトやインターンシップの経験は少なく（「アルバイトをしたことがない」人が3割を超え、インターンシップの経験者は16%）、職業理解が十分に進んだ上での選択になるのかどうか疑問が残る。リアリティ・ショックを受ける可能性があるのではないかと。要因はこれだけではないだろうが、3年以内に転職の可能性があるとする人が6割を超える。

- ④家庭内における性別役割分担については、男女平等な考え方である。「家庭生活において、男性も家事や育児を分担すべきである」と思う人が85.7%、「収入は主に夫が稼ぐべきである」と思わない人とあまりそう思わない人の合計が7割を超え、「女性は結婚したら家庭に入った方がいい」と思わない人とあまりそう思わない人の合計が8割である。

#### (4) 今後の課題

今回の調査は類似の先行調査を参考に、大学生を対象に行うものであり、同様の調査を他国や日本国内でも実施し、比較検討する必要がある。今回の調査結果についても、より詳細な検討を行う必要がある。

また、今回の調査対象者は日本語を学んでいる学生であるため、必ずしも中国の平均的な大学生であるとはいえない。調査結果分析に当たっては、この点についても考慮する必要がある。今後は他学部の学生を対象にした調査も実施すべきだろう。

さらに大連外語大学日本語学部でのようなキャリア教育科目があり、どのようなキャリア教育が行われているのか、また、同大学のキャリアセンターでどのような学生支援が行われているのか、調査する必要がある。

#### 注

- 1) 調査結果は、以下の電通育英会のウェブサイト  
に公開されている。

<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/transmission/investigation/about/>

- 2) 調査結果は、以下の株式会社マイナビのウェブサイト  
に公開されている。

[http://saponet.mynavi.jp/enq\\_gakusei/ishiki/data/ishiki\\_2017.pdf](http://saponet.mynavi.jp/enq_gakusei/ishiki/data/ishiki_2017.pdf)

- 3) 調査結果は、以下のリクルートワークス研究所  
のウェブサイト  
に公開されている。

[http://www.works-i.com/pdf/s\\_000242.pdf](http://www.works-i.com/pdf/s_000242.pdf)

#### 引用文献

友松篤信 (2012)『グローバルキャリア教育 グローバル人材の育成』友松篤信編、ナカニシヤ出版、pp.16-17.

International Association for Educational and Vocational Guidance (1999), Strategies for Vocational Guidance in the Twenty-first Century, <http://www.unesco.org/education/educprog/tve/nseoul/docse/rstratve.html>

OECD (2004), Career Guidance and Public Policy – Bridging the Gap, <http://www.oecd.org/education/innovation-education/34050171.pdf>

Hyslop-Margison, Emery J., Sears, Alan M. (2006) Neo-Liberalism, Globalization and Human Capital Learning – Reclaiming Education for Democratic Citizenship, Springer Netherlands.

UNESCO (2002), Handbook on career counseling A practical manual for developing, implementing and assessing career counseling services in higher education settings, <http://unesdoc.unesco.org/images/0012/001257/125740e.pdf>

なお、筆者らによる日本語訳は、以下のリンクから入手できる。以下、引用は日本語訳による。  
[http://cq.i.hosei.ac.jp/index.php?key=joycs280g-11#\\_11](http://cq.i.hosei.ac.jp/index.php?key=joycs280g-11#_11)

葛西和恵, 「中国進出日系企業の採用・人材育成—キャリア形成の実態と課題—」, 2013, キャリアデザイン学部紀要

## 付録 アンケート調査の内容と結果

①あなたの住まいについてお答えください。

表 2 居住先 (単位：人)

自宅	0	0.0%
学生寮・学生会館	49	98.0%
下宿	0	0.0%
アパート	1	2.0%
その他	0	0.0%

(n = 50)

②あなたの収入状況についてお答えください。おおよその金額（月額換算）をお知らせください。

表 3 収入状況 (単位：円)

	平均	最小値	最大値
親からの仕送りなどによる収入	1,791	1,000	5,000
アルバイトなどにより自分で得ている収入	59	100	550
奨学金などで得ている収入	186	50	1,500
その他の収入	92	250	2,500
全体	2,129	1,000	6,000

(n = 45)

注 1. 1人民元 = 16円で換算

注 2. アルバイトの収入を回答した学生は 8 名、奨学金の収入を回答した学生は 15 名、その他の収入を回答した学生は 5 名である。

③あなたは学費免除・授業料免除の対象になったことはありますか。あてはまるものを 1 つお知らせください。

表 4 学費免除・授業料免除対象 (単位：人)

ある	2	4.1%
免除の申請をしたが通らなかった	2	4.1%
ない	45	91.8%

(n = 49)



- ④（②で、奨学金などで得ている収入があるとお答えの方）卒業後の奨学金の返還予定は、次のどれに近いですか。あてはまるものを1つお知らせください。

表5 奨学金の返済予定 (単位：人)

自分ひとりで返還する予定	3	20.0%
親と半々で返還する予定	0	0.0%
主に親が返還する予定	0	0.0%
まだ決めていない	3	20.0%
返済の必要はない	8	53.3%
その他	1	6.7%

(n = 15)

- ⑤あなたが大学に進学しようと思ったのはなぜですか。入学前にあなたが最も重視した理由を1つお知らせください。また、現在あなたが最も重視しているものも1つお知らせください。

表6 進学理由 (単位：人)

	大学入学前		現 在	
教養や視野の拡大	9	23.7%	10	26.3%
立派な人格形成	3	7.9%	8	21.1%
専門知識、技術の習得	10	26.3%	4	10.5%
学問研究	0	0.0%	1	2.6%
就職に有利	5	13.2%	4	10.5%
就職に必要な勉強をする	4	10.5%	4	10.5%
将来の安定した生活	0	0.0%	5	13.2%
結婚に有利	0	0.0%	0	0.0%
青春を楽しむ	2	5.3%	2	5.3%
課外活動に励む	0	0.0%	0	0.0%
皆が行くから	2	5.3%	0	0.0%
家族が勧めるから	1	2.6%	0	0.0%
高校時代等の先生が勧めるから	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	2.6%	0	0.0%
特に理由はない	1	2.6%	0	0.0%

(n = 38)

⑥あなたの学生生活は充実していますか。あてはまるものを1つお知らせください。

表7 学生生活に対する充実感 (単位：人)

充実している	14	28.0%
まあまあ充実している	27	54.0%
どちらともいえない	4	8.0%
あまり充実していない	1	2.0%
充実していない	4	8.0%

(n = 50)

⑦あなたは大学に入って、単位の出るキャリア教育科目（就職対策や人生設計などに関する授業科目）をどの程度受講しましたか。あてはまるものを1つお知らせください。

表8 キャリア教育科目の受講 (単位：人)

かなり受講した	4	8.0%
まあまあ受講した	17	34.0%
少し受講した	22	44.0%
受講したことがない	7	14.0%

(n = 50)

⑧キャリア教育科目の受講は、今のあなたにどの程度影響を及ぼしていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

表9 キャリア教育科目の影響 (単位：人)

かなり影響を及ぼしている	8	16.3%
まあまあ影響を及ぼしている	18	36.7%
どちらともいえない	6	12.2%
あまり影響を及ぼしていない	13	26.5%
まったく影響を及ぼしていない	4	8.2%

(n = 49)

⑨あなたは大学に入って、キャリアセンターなどが主催する、単位とは無関係のキャリア形成支援（就職対策や人生設計など）のためのセミナーや講座（就職ガイダンスや就職セミナーを含む）をどの程度受講しましたか。あてはまるものを1つお知らせください。

表10 キャリア形成支援セミナー・講座の受講 (単位：人)

かなり受講した	3	6.0%
まあまあ受講した	16	32.0%
少し受講した	22	44.0%
受講したことがない	9	18.0%

(n = 50)

⑩そのことは、今のあなたにどの程度影響を及ぼしていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

表 11 キャリア形成支援セミナー・講座の影響

(単位：人)

かなり影響を及ぼしている	3	6.0%
まあまあ影響を及ぼしている	21	42.0%
どちらともいえない	7	14.0%
あまり影響を及ぼしていない	11	22.0%
まったく影響を及ぼしていない	8	16.0%

(n = 50)

⑪あなたは大学で、就職に関する相談（人生設計に関する相談を含む）を個別にしたことがありますか。

あてはまるものを1つお知らせください。

表 12 就職に関する相談

(単位：人)

かなり相談した	10	20.0%
まあまあ相談した	18	36.0%
少し相談した	11	22.0%
相談したことがない	11	22.0%

(n = 50)

⑫就職に関する相談をどのような方にしましたか。あてはまるものすべてをお知らせください。(いくつでも)

表 13 就職に関する相談の相手

(単位：人)

先生	22	46.9%
上級生など学生（大学院生を含む）	23	48.9%
事務職員	2	4.3%
キャリアセンターにいる専門スタッフ・カウンセラーなど	5	10.6%
その他	12	25.5%

(n = 47)

⑬就職に関する相談をしたことは今のあなたにどの程度影響を及ぼしていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

表 14 就職に関する相談の影響

(単位：人)

かなり影響を及ぼしている	9	19.1%
まあまあ影響を及ぼしている	20	42.6%
どちらともいえない	9	19.1%
あまり影響を及ぼしていない	7	14.9%
まったく影響を及ぼしていない	2	4.3%

(n = 47)

- ⑭あなたは就職に備えて、大学で専門の勉強をする以外に、何か資格を持っておくことが必要だと考えていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

表 15 資格に対する意識 (単位：人)

とても必要だと思う	39	78.0%
まあまあ必要だと思う	9	18.0%
どちらともいえない	1	2.0%
あまり必要だとは思わない	1	2.0%
まったく必要ない	0	0.0%

(n = 50)

- ⑮あなたはアルバイトをしたことがありますか。

表 16 アルバイトの経験 (単位：人)

ほぼ常にしている	3	6.0%
必要に応じてしている	9	18.0%
時々している	22	44.0%
したことがない	16	32.0%

(n = 50)

- ⑯あなたはインターンシップに参加したことがありますか。

表 17 インターンシップの経験 (単位：人)

すでに参加したことがある	3	6.0%
現在参加している	5	10.0%
今後参加したい	35	70.0%
考えていない	7	14.0%

(n = 50)

- ⑰あなたには、だいたいの将来設計がありますか。最も近いものを1つお知らせください。

表 18 将来設計 (単位：人)

大いにある	21	42.0%
どちらかと言えばある	21	42.0%
どちらとも言えない	6	12.0%
どちらかと言えない	1	2.0%
まったくない	1	2.0%

(n = 50)

⑱あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことにに関して、どれくらい関与しますか。あてはまるものを1つお知らせください。

表 19 両親の関与 (単位：人)

非常に関与する	14	28.0%
まあまあ関与する	21	42.0%
どちらとも言えない	6	12.0%
あまり関与しない	6	12.0%
まったく関与しない	3	6.0%

(n = 50)

⑲あなたにとってこの両親の関わり方はどの程度良いものですか。あてはまるものを1つお知らせください。

表 20 両親の関与への感覚 (単位：人)

かなり良い	15	30.0%
まあまあ良い	20	40.0%
どちらとも言えない	8	16.0%
あまり良くない	4	8.0%
まったく良くない	3	6.0%

(n = 50)

⑳あなたの就職希望度は次のうちどちらですか。

表 21 就職希望の程度 (単位：人)

なにがなんでも就職したい	19	38.0%
希望する就職先に決まらなければ、就職しなくともよい	31	62.0%

(n = 50)

㉑(㉒で「希望する就職先に決まらなければ、就職しなくともよい」と回答した人のみ) 就職しなかった時の進路はどうしますか。

表 22 就職しなかった場合の進路 (単位：人)

進学 (留学、大学院進学)	22	75.9%
卒業して次年度就職活動する	4	13.8%
フリーター	0	0.0%
就職留年	0	0.0%
起業	3	10.3%

(n = 29)



②あなたは将来就職して3年以内に、どの程度転職があるだろうと予想していますか。あてはまるものを1つお知らせください。

表 23 3年以内の転職予想 (単位：人)

かなりあるだろうと思う	6	12.0%
あるかもしれないと思う	25	50.0%
たぶんないだろうと思う	12	24.0%
まったくないと思う	4	8.0%
そんなことは考えたことがない	3	6.0%

(n = 50)

③仕事にもいろいろありますが、あなたはどんな仕事が理想的だと思いますか。1番理想的だと思う仕事と、2番目にそう思う仕事を1つずつお知らせください。(それぞれ1つずつ)

表 24 理想的な仕事 (単位：人)

	1 番理想だと思 う仕事		2 番目に理想だと思 う仕事	
働く時間が短い仕事	1	2.4%	3	7.3%
失業の心配のない仕事	1	2.4%	4	9.8%
健康をそこなう心配がない仕事	5	12.1%	2	4.9%
高い収入が得られる仕事	13	31.7%	17	41.5%
仲間と楽しく働ける仕事	7	17.1%	5	12.2%
責任者として、采配が振るえる仕事	1	2.4%	2	4.9%
独立して、人に気がねなくやれる仕事	3	7.3%	2	4.9%
専門知識や特技が活かせる仕事	7	17.1%	6	14.6%
世の中からもてはやされる仕事	0	0.0%	0	0.0%
世の中のためになる仕事	1	2.4%	0	0.0%
その他	2	4.9%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%

(n = 41)

④仕事についてあなたの考えや希望についてお聞きます。

表 25 仕事についての考えや希望

(単位：人)

	そう思う		ややそう思う		あまりそう 思わない		そう思わない		n
仕事を生きがいとしたい	22	44.0%	20	40.0%	5	10.0%	3	6.0%	50
おもしろい仕事であれば、収入が少なくてもかまわない	9	18.0%	22	44.0%	16	32.0%	3	6.0%	50
どこでも通用する専門技能を身につけたい	34	68.0%	10	20.0%	6	12.0%	0	0.0%	50
いずれリストラされるのではないかと不安だ	9	18.4%	26	53.1%	10	20.4%	4	8.2%	49
いずれ会社が倒産したり破綻したりするのではないかと不安だ	13	26.0%	13	26.0%	17	34.0%	7	14.0%	50
仕事をしていくうえで人間関係に不安を感じる	7	14.0%	23	46.0%	16	32.0%	4	8.0%	50
仕事を通じて人間関係を広げていきたい	26	52.0%	16	32.0%	6	12.0%	2	4.0%	50
仕事はお金を稼ぐための手段であって、面白いものではない	1	2.0%	16	32.0%	21	42.0%	12	24.0%	50
高い役職につくために、少々の苦労はしてもがんばる	29	58.0%	13	26.0%	8	16.0%	0	0.0%	50
職場の同僚、上司、部下などとは勤務時間以外はつきあいたくない	1	2.0%	15	30.0%	21	42.0%	13	26.0%	50
職場の上司、同僚が残業していても、自分の仕事が終わったら帰る	10	20.0%	13	26.0%	14	28.0%	13	26.0%	50
できることなら終身雇用（無期雇用）で働きたい	12	24.0%	13	26.0%	14	28.0%	11	22.0%	50
社会や人から感謝される仕事がしたい	15	30.6%	24	49.0%	9	18.4%	1	2.0%	49

⑤あなたが企業選択をする場合、どのような企業がよいと思いますか。2つ選択してください。

表 26 企業選択の基準

(単位：人)

安定している会社	7	14.6%
これから伸びそうな会社	6	12.5%
給料の良い会社	15	31.3%
自分のやりたい仕事（職種）ができる会社	19	39.6%
有名な会社	2	4.2%
休日、休暇の多い会社	7	14.6%
勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社	13	27.1%
転勤のない会社	0	0.0%
海外で活躍できそうな会社	2	4.2%
いろいろな職種を経験できる会社	2	4.2%
自分の能力・専門を活かせる会社	12	25.0%
大学・男女差別のない会社	2	4.2%
若手が活躍できる会社	2	4.2%
事業を多角化している会社	3	6.3%
働きがいのある会社	0	0.0%
志望業種の会社	1	2.1%
親しみのある会社	0	0.0%
社風が良い会社	1	2.1%
一生続けられる会社	1	2.1%
研修制度のしっかりしている会社	1	2.1%

(n = 48)

②⑥現時点での志望職種は何ですか。

表 27 志望職種 (単位：人)

総務・経理・人事などの管理部門	4	9.3%
営業企画・営業部門	5	11.6%
商品企画・開発・設計部門	6	14.0%
広報・宣伝部門	2	4.7%
海外営業などの海外事業部門	5	11.6%
研究・開発部門	0	0.0%
調査・企画部門	0	0.0%
製造技術・生産管理部門	0	0.0%
情報システム部門	3	7.0%
技術サービス部門	1	2.3%
教師・教員	7	16.3%
国家公務員・地方公務員	4	9.3%
その他	6	14.0%

(n = 43)

②⑦あなたの海外志向について最も近いものはどれですか。

表 28 海外志向 (単位：人)

海外勤務はしたくない	5	10.2%
希望する勤務地なら海外で勤務したい	18	36.7%
やりたい仕事があるので海外で勤務したい	21	42.9%
仕事内容に関わらず海外で勤務したい	5	10.2%

(n = 49)

⑳就職活動（面接や提出書類の記述内容）において、あなたが企業にアピールしたい強み・セールスポイントは何ですか。1番アピールしたいことと、2番目にそう思うことを1つずつお知らせください。（それぞれ1つずつ）

表 29 企業にアピールしたい強み・セールスポイント （単位：人）

	1 番アピール したいこと		2 番目にアピール したいこと	
人間関係能力	7	15.9%	6	13.6%
自己統制能力	3	6.8%	2	4.5%
問題発見・解決能力	17	38.6%	11	25.0%
論理的思考能力	2	4.5%	5	11.4%
達成意欲	7	15.9%	1	2.3%
自信	0	0.0%	4	9.1%
大学名	0	0.0%	0	0.0%
大学での専攻	0	0.0%	0	0.0%
専門的知識・技術	8	18.2%	8	18.2%
就業経験	0	0.0%	3	6.8%
職業資格	0	0.0%	0	0.0%
IT スキル	0	0.0%	0	0.0%
語学力	0	0.0%	4	9.1%

(n = 44)

㉑あなたはどの国の企業や団体（学校を含む）などで働きたいですか。

表 30 働きたい国 （単位：人）

	進んで働きたい		働いてもよい		働きたくない		n
アメリカ企業	13	27.1%	21	43.8%	14	29.2%	48
ヨーロッパ企業	15	31.9%	20	42.6%	12	25.5%	47
中国企業	27	55.1%	21	42.9%	1	2.0%	49
韓国企業	2	4.2%	14	29.3%	32	66.7%	48
日本企業	22	46.8%	21	44.7%	4	8.5%	47

⑩日本企業に対するイメージとしてあてはまるものを選んでください。

表 31 日本企業に対するイメージ

(単位：人)

	あてはまる		ややあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない		わからない	
長期的な視野で仕事のスキルやノウハウを学べる	19	38.8%	24	49.0%	4	8.2%	2	4.1%	0	0.0%
自分の専門性を生かせる	19	38.8%	25	51.0%	5	10.2%	0	0.0%	0	0.0%
経営陣が信用できる	25	51.0%	22	44.9%	1	2.0%	2	4.1%	0	0.0%
将来のキャリアパスを描くことができる	12	24.5%	28	57.1%	6	12.2%	3	6.1%	0	0.0%
高い報酬がもらえる	17	34.7%	27	55.1%	3	6.1%	2	4.1%	0	0.0%

(n = 49)

⑪デートの約束があった時、残業を命じられたら、あなたはどのようにしますか。

表 32 デート or 残業

(単位：人)

デートをやめて仕事をする	33	67.3%
断ってデートをする	16	32.7%

(n = 49)

⑫給与の決め方（給与体系）について、あなたはどちらの体系がのぞましいと思いますか。

表 33 望ましい給与体系

(単位：人)

各人の業績や能力が大きく影響する給与体系	41	83.7%
業績や能力ではなく、年齢経験により給与が上がる体系	3	6.1%
どちらともいえない	5	10.2%

(n = 49)



㊸あなたのいろいろな考えや経験についておたずねします。

表 34 考え方や経験

(単位：人)

	そう思う		ややそう思う		あまりそう 思わない		そう思わない		n
家庭生活において、男性も家事や育児を分担すべきである	42	85.7%	3	6.1%	4	8.2%	0	0.0%	49
収入は主に夫が稼ぐべきである	1	2.0%	12	24.5%	23	46.9%	13	26.5%	49
女性は結婚したら家庭に入った方がいい	3	6.1%	7	14.3%	21	42.9%	18	36.7%	49
たとえ経済的に恵まれなくても、気ままに楽しく暮らすほうがいい	18	36.7%	12	24.5%	12	24.5%	7	14.3%	49
あまり収入がよくなくても、やりがいのある仕事がしたい	12	24.5%	21	42.9%	12	24.5%	4	8.2%	49
世の中は、いろいろな面で、今よりもよくなっていくだろう	14	29.2%	23	47.9%	9	18.8%	2	4.2%	48
世の中は、いろいろな面で、今よりも昔のほうがよかった	10	20.4%	16	32.7%	17	34.7%	6	12.2%	49
自分はいい時代に生まれたと思う	21	42.9%	22	44.9%	4	8.2%	2	4.1%	49
冒険をして大きな失敗をするよりも、堅実な生き方をするほうがいい	17	35.4%	16	33.3%	12	25.0%	3	6.3%	48
将来の幸福のために、今は我慢が必要だ	28	57.1%	17	34.7%	3	6.1%	1	2.0%	49
他人にはどう思われようと、自分らしく生きたい	24	49.0%	21	42.9%	3	6.1%	1	2.0%	49